



竹原

館山市竹原地区

地域の紹介

竹原地区は館山市の東部内陸に位置する九重地区に属し、周囲を丘陵に囲まれる山裾の集落から見渡せば広大な平野部が広がり、九重地区の中でも一番の米作地域です。古くは条里制の跡も見られる古代から開拓された地域で、昭和に行われた圃場整理により田の大きさが整備された一層の農業の振興が図られた結果、機械化農業が進み現在は兼業農家が増えています。

田村、相賀、滝ノ谷、横枕、田辺の五集落から成り立ち、現在は百二十世帯ほどで、各集落から選ばれた区長、氏子総代を総区長がまとめる形で竹原地区が運営されています。

竹原の山の上から移された樹齢千年ともいわれる御神木のビヤクシンが長年にわたって集落を見守っています。

また、地域の方々から「お不動様」と呼ばれ親しまれている「滝ノ谷の不動様」「田村の「春光寺」といった史跡名刹に囲まれていて、豊かな自然と歴史に育まれながら、今も昔も五つの集落が手を携え協力しながら生活を営むつながりが受け継がれた、心暖まる地域です。

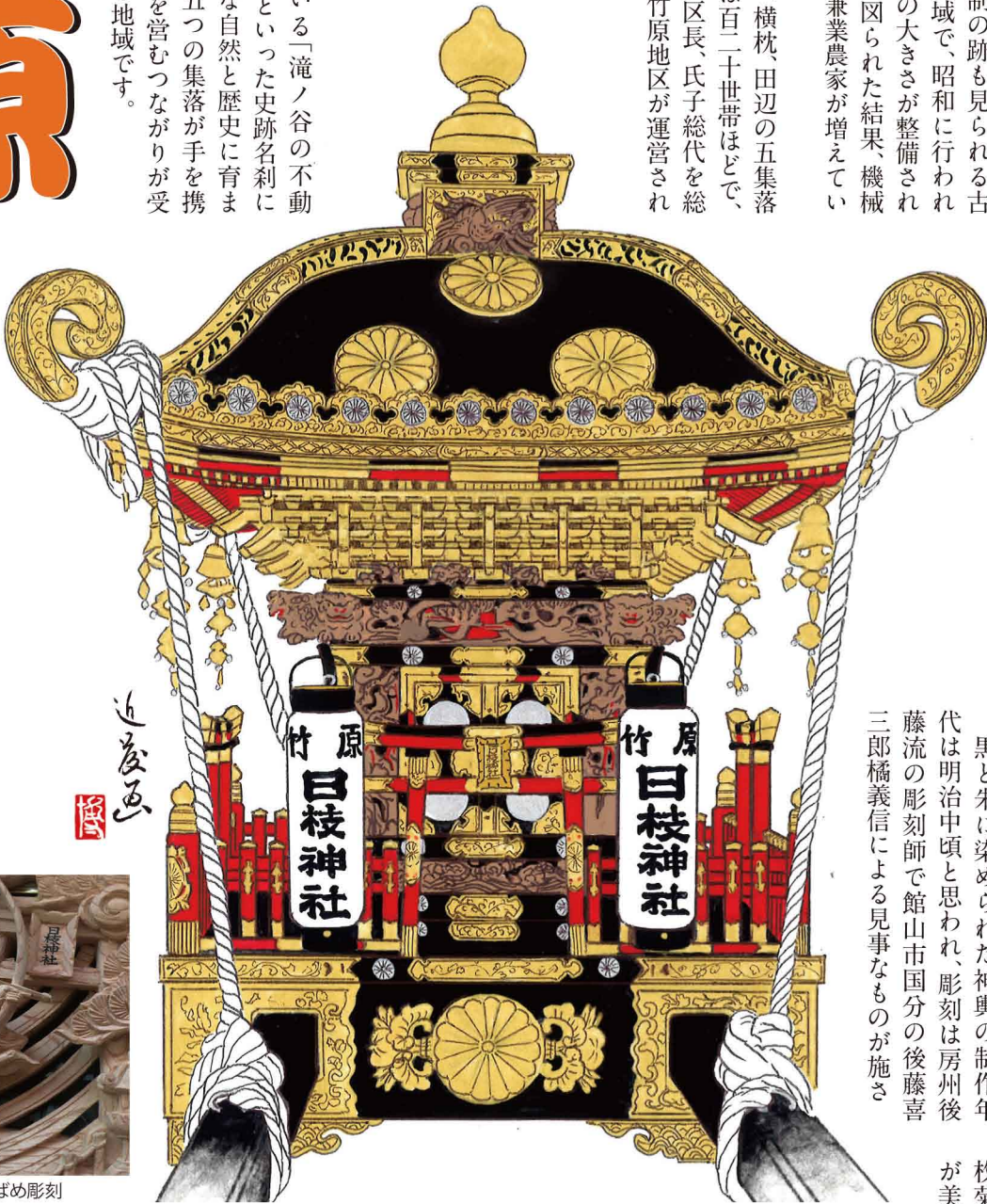
自慢の神輿と屋台

竹原地区には、日枝神社の氏子である田村、相賀、滝ノ谷、横枕、田辺の竹原五組の人たちによって維持管理されている神輿と、田辺地区が所有して

いる屋台があります。また、昭和三十五年山萩地区から白木の神輿を譲り受けており、今は二基の神輿を持っていて、黒と朱で塗られた神輿を「黒」、白木の神輿を「白」と呼び、現在は「黒」の神輿で祭礼を行っています。

黒と朱に染められた神輿の制作年代は明治中頃と思われる、彫刻は房州後藤流の彫刻師で館山市国分の後藤喜三郎橋義信による見事なものが施されています。

田辺地区が所有している屋台は昭和二十四年に南房総・御庄大工の岡田氏が制作しました。唐破風の屋根の懸魚に彫物をつけ、当時は正面の提灯には田辺地区の「た」の文字が入れられていました。



近後通

- 屋根…延屋根方形普及一直線型 ● 葺手…普及型
- 造り…塗り ● 露盤…枳型 ● 種…種
- 胴造…平屋台 ● 舂組…五行三つ手 ● 扉…前後扉
- 鳥居…明神鳥居 ● 台輪…普及型
- 台輪寸法…三尺六寸三分 ● 制作者…不明
- 彫刻師…後藤喜三郎橋義信 ● 制作年…明治時代



迫力のある胴はめ彫刻



15枚菊紋などの飾り金具と見事な彫刻



昭和24年に新造された竹原地区田辺の屋台